

(平成28年秋掲載) 平成27年度の学校経営計画及び評価 (中学部)

1. 目指す学校像

建学の精神である校訓三綱領の『一、履正不畏(りせいふい)：自ら正しいと信ずることを、何ものにも畏れず勇気と責任を持って実践する。二、勤労愛好(きんろうあいこう)：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。三、報本反始(ほうほんはんし)：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々(ご両親や恩師)のお陰であり、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、次世代を担える生徒の育成。

2. 中期的(平成27年度)教育指導 重点目標

(1) 知育尊重と人間教育

1. 進学指導の充実と進学実績の向上
2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導
3. 3ヵ年・6ヵ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導

(2) 私学履正社として、ニーズに応える信頼づくり

1. 生徒・保護者からの信頼づくり
2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり

(3) 環境・システムの醸成

1. 心豊かで潤いのある学校生活

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年度末]	<p style="text-align: center;">【 学校運営協議会 構成メンバー 】 学校長・教頭(教務部長兼務)・生徒指導部長・ 進路指導部長・保護者会会長 学校運営協議会からの意見</p>
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活は楽しい (H.27 : 89.1% H.26 : 92.0%) ・授業に先生方の熱意が感じられる。 (H.27 : 81.2% H.26 : 82.0%) <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 (H.27 : 90.0% H.26 : 92.4%) ・授業に先生方の熱意が感じられる。 (H.27 : 85.2% H.26 : 90.7%) <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は授業に対する十分な教材研究・事前学習に努めている。 (H.27 : 91.7% H.26 : 86.4%) ・生徒はしっかりと集中して授業を受ける体制が出来ている。 (H.27 : 79.2% H.26 : 95.5%) <p>【学校運営全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の全体質問(生徒：37問、保護者：38問)に対する肯定回答比率(四捨五入で7割を肯定目途とする)は、生徒で昨年値と全く同値の70.3%、保護者が昨年比-5.2%の89.5%となる。 	<p>第1回(H.27年6月13日 13:00～約1時間) *本年度の中期的重点目標内容を保護者会会長に説明、賛同を得る。</p> <p>第2回(H.27年10月31日 14:00～約1時間) *2学期に入り9月に校長名で、(中・高の保護者・生徒向け)新校舎建設のお知らせが届いた。校舎はH.29年3月に、最終のグラウンド整備完成は同年8月末と聞いている。保護者会は非常にお目出たく喜ばしいことで歓迎するが、次の2点を要望する。①工事期間中は、全ての作業において“生徒に対して安全第一”であること。②体育授業やクラブ活動の補填対策を可能な範囲で徹底する事。H.28今日現在、上記①②に関しての学校運営上、特段の問題なく推移している。保護者会の要望として今後も“生徒に対して安全第一”を最優先に、また生徒に不利益が生じ無いよう最大限取り組むことを確認。</p> <p>第3回(H.28年3月17日 13:00～約2時間) *平成27年度教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、昨年度/内容によっては一昨年度と対比し総括する。</p> <p>① 私学進学校として、知育尊重を教育方針の一つと掲げ、義務教育期間でありながらも1年次より徹底した教科指導に対し、保護者としても先生方の熱意を感じている。生徒が“学校が楽しい”と認識し毎日元気に通学し、親がそれを実感した結果、“この学校に通わせて満足している”の構図が出来上がり、それが高い達成値で過去2年連続示されていることは、保護者としても私学の学校としても非常に結構で喜ばしいと評する。義務教育の根幹が確立しており、この事を基盤に知育尊重の重点目標の達成があると考え。親のほぼ8割が、また教職員の自己評価(進路・学習両面)でも9割超えの先生方が学校⇄家庭間の両輪で生徒を育てている認識である。とは言え、まだまだ子供。友人関係・学習面等、些細な変化も見逃すことなく、今後とも一層のご指導を保護者会としてお願いをしておく。</p> <p>② 本年度もあとわずかとなったが、学校運営計画は大過なく順調と一定の評価が出来る。H.28は1年を通じて校舎工事期間となる。この環境から起因し、子供たちがストレスを溜め込まないように、休み時間のすごし方の工夫・内容豊かな学校行事の実施等を保護者としてはお願いをしておく。H.27は3ヵ年/6ヵ年両コースとも最近の中で特に進学内容の良い実績であった。来年も更なる飛躍・躍進を期待している。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
(1) 知育尊重と人間教育	<p>1. 進学指導の充実と進学実績の向上</p> <p>あ) 3 い) 38 う) 39 え) 40 お) 41 か) 42</p> <p>昨年度より検証項目として追加した。(昨年比も加えて算出した)</p> <p>2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導</p> <p>あ) 21 い) 25</p> <p>3. 3ヵ年・6ヵ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導</p> <p>あ) 3 い) 26</p>	<p>1. あ) 教員間の相互理解・信頼関係により教育活動が実践される。 い) 教科会議で授業内容について意見交換したり、授業見学を行う機会を設ける。 う) 初任者など、経験の少ない教職員をサポートする体制を整える。 え) 校外の研修に教員が参加できる体制を整える。 お) 研修・研究に参加した教員が、その成果を他の教員と共有できる体制を整える。 か) 教職員は、常に資質向上の意欲を持ち、効果的な教員研修を受ける。</p> <p>2. あ) 学習内容は生徒の学力・能力に応じて進める。 い) 学習指導において生徒の実態に即した指導に努める。</p> <p>3. あ) 教員間の相互理解・信頼関係により教育活動が実践される。 い) 個々の生徒について状況などを把握する体制を整える。</p>	<p>1. あ) 70%以上 い)～か)の平均指数70%以上</p> <p>2. あ)～い)の平均指数80%以上</p> <p>3. あ) 70%以上 い) 80%以上</p>	<p>1. あ) H.27は前年比+3.1%の微増となるも66.7%に留まる(Δ)。しかしながら、少しずつ教科担当と担任との情報交換の場面を目の当たりにする機会が増え改善傾向が認められる結果と言える。い)～か)のH.27の平均指数は前年比-1.6%の27.5%となり、評価指数を大きく下回る(×)。予備校主催の中学校対象の“専門教科の研修会”等は相変わらず殆どなく、他校への見学もままならない。相互研修の意味で、互いの授業見学をし意見交換の場が持てればと思うが、現在、実現しているのが教科の特性上、僅か1教科である。う)に関し、新任に対して、ベテラン教諭が授業見学しアドバイスの機会を持つ本校チューター制度はしっかり機能を果たし数字が示すほど問題はないと考える。教科担当者の自己啓発による教材研究レベルを相互の意見交換の場へと発展させる可能性を引き続き摸索する。</p> <p>2. あ・い)の平均指数は、H.27は前年比-11.8%の81.3%に至る(◎)。過去2年、90%を超える実績であっただけに、私学に託された期待を一層重く受け止め、更なるきめ細かな教育を心がける。</p> <p>3. あ) H.25は79.2%、H.26は63.6%、本年H.27は66.7%と前年に対し微増。1-あ)の分析参照。い)ではH.25は75.0%、H.26は68.2%、本年H.27は82.6%で(◎)。募集人数を両コースとも絞り込んで3年。これまで以上に個々の生徒の的確な把握と管理が充実してきたと言える。</p>
(2) 私学履正社として、ニーズに応える信頼づくり	<p>1. 生徒・保護者からの信頼づくり</p> <p>あ) 23・26・27・28・29・31 い) 24・30・32 う) 33・34</p> <p>2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり</p> <p>あ) 11・12</p>	<p>1. 生徒・保護者には次のあ・い)の観点を信頼作りの基盤とする。また、生徒の出身小学校に対しては、う)の観点を信頼作りの基盤とする。 あ) 生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。 い) 上記あ)に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。 う) 生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と、保護者・出身小学校との密な連携を常に心掛ける。</p> <p>2. あ) 地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。</p>	<p>1. あ)の平均指数80%以上 い)の平均指数80%以上 う)の平均指数80%以上</p> <p>2. あ)の平均指数70%以上</p>	<p>1. あ)の平均指数は、H.25は69.4%、H.26は71.0%、H.27は69.9と、前年を少し割り込む(Δ)。い)の平均指数は、H.25は90.3%、H.26は86.4%、H.27は91.6%に至る(◎)。あ・い)の総評として、限られた人数ながら、担任/学年・進路・生指と、機能分化とそれぞれの密な連携で、あ)の数字が物語る以上に体制としてしっかり機能していると認識する。い)の数字が実証。休みがちな生徒、気持ちの弱い生徒に対し、常に担任が、場合によれば学年レベルで連絡を取り合い、問題解決に取り組んでいることが数字に表れていると評価する。う) H.27の平均指数は64.6%と前年比-3.6%となり(×)。このケースに至る例は殆どないが、至れば上記い)で言及しているように何とか回避すべく、家庭との両輪で特段の連携をとっているのが実態である。</p> <p>2. (実態に即し昨年度より評価指数を10%引き下げて設定) あ) 評価指数を下げてH.27は前年比-9.8%で33.4%であった(×)。頻度は決して多くはないが、地域に貢献する清掃のボランティア活動をしたり、新聞に取り上げられる地域(近隣住民・小学校)ぐるみの一大天体観測ショーの実施や、施設を貸与しての地域住民対象の生涯教育活動等はしっかりなされている。教職員の認識育成に努めたい。</p>
(3) 環境・システムの醸成	<p>心豊かで潤いのある学校生活</p> <p>あ) 6・7・8 い) 9・10 う) 17・18</p>	<p>あ) ホームページ、学校・学年・学級から保護者への情報提供と授業公開を定期的に行い、開かれた学校環境に努める。 い) 危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防との連携と、適切な校内訓練のシステムの構築に努める。 う) 環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。</p>	<p>あ)の平均指数80%以上 い)の平均指数80%以上 う)の平均指数80%以上</p>	<p>あ) H.27の平均指数は前年比-17.2%の72.2%となる。職員の意識改革もかなり進み、実態は数字以上の内容であると認識する(Δ)。今後も適宜情報提供に努め、(H.28早々に、更に多くの情報発信を目的とする中高HP委員会を発足予定)保護者の方に安心をして頂く環境作りを目指します。</p> <p>い) H.27の平均指数は前年比+6.8%の50.0%となる。勉強中心の学校生活であっても、更なる管理体制の構築と指導徹底を図る(×)。特に、H.28今日現在、校舎建て替えの状況下の中、非常時を想定し、緑地公園での訓練は既に実施済み。</p> <p>う) H.27の平均指数は前年比を大きく下回る-21.8%の39.6%であった(×)。全校レベルで時間を決め、一斉清掃(教員が付き添い指導をする)を日課としているが、平素の意識付けがなかなか困難であるのが現状である。上記(2)の2-あ)で清掃ボランティア活動に言及したが、活動の意味合いが“ただ学校周辺をきれいにしよう!”的に終わっている感が否めない。(3)のう)-17に関しては、中学生には高度な要求であるが、更にもう一歩深め、環境問題を意識させるよう心掛けたい。</p>